



鶴間 和幸

日本学術振興会
アジア研究教育拠点事業
「東アジア海文明の歴史と環境」
日本側コーディネーター
学習院大学文学部教授

■ ごあいさつ ■

学習院大学は2005年9月に日本学術振興会アジア研究教育拠点に採択され、日本（学習院大学）・中国（復旦大学）・韓国（慶北大学校）との間で「東アジア海文明の歴史と環境」をテーマとした共同研究を開始しました（2009年度まで）。今回の講座はこの事業の一環としておこなうもので、若手研究者と市民のみなさんへ向けての授業です。

海外から招聘した先生方に講演会をお願いすることはこれまでも度々おこなってまいりましたが、この講座の特色は日本に居ながらにして、本場の中国・韓国の授業を聞くことができるということです。授業時間もたっぷり用意し、先生から専門分野に関する詳しいお話を聞くことができるように設定いたしました。

できるだけ多くの方々が東アジア学交流講座にご参加いただけることを心より願っております。

※参加費無料。参加資格は問いません。どなたでもご参加いただけます。

※会場の関係から下記の事務局までEメールで事前にご参加のお申し込みをいただければ幸いです（7月15日まで）。もちろん、当日参加も歓迎いたします。一回のみの参加も可能です。

【申込先・連絡先】

学習院大学アジア研究教育拠点事業事務局

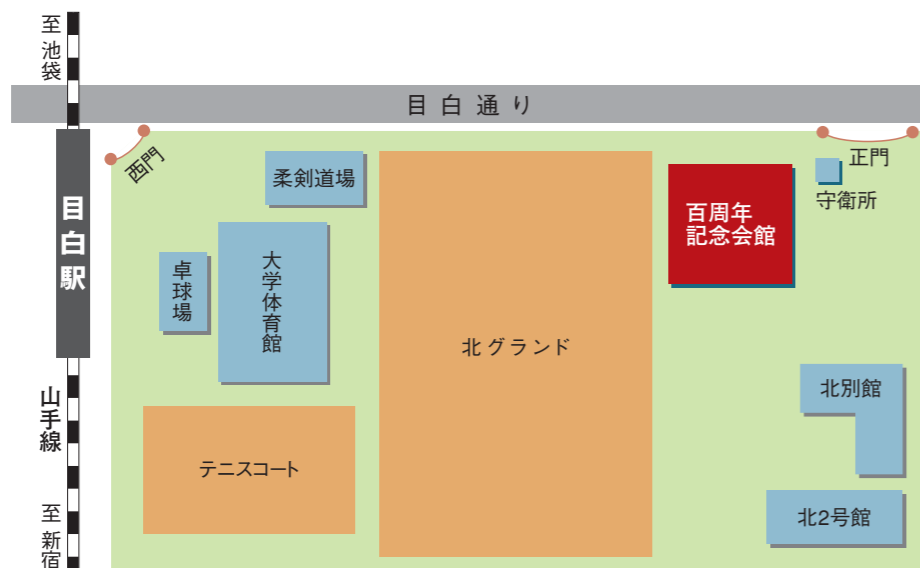
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL：03-3986-0221（内線5743） Fax：03-5992-9218（人文科学研究所兼）

E-mail：asia-off@gakushuin.ac.jp URL：http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~asia-off/



※本事業は独立行政法人日本学術振興会（アジア研究教育拠点事業）の助成を受けています



交通：JR山手線目白駅徒歩1分

学習院大学 東アジア学交流講座

（2006年度講義要項）



第一期 7月18日(火)～20日(木) [韓国史]

[1時間目] 13:00～14:30 / [2時間目] 14:40～16:10 /

[3時間目] 16:20～17:50

テーマ：朝鮮時代の社会と文化

講師：禹 仁秀氏 韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科助教授 / 学習院大学客員研究員

教室：学習院百周年記念会館3階第1・2会議室

第二期 7月25日(火)～27日(木) [中国史]

[1時間目] 13:00～14:30 / [2時間目] 14:40～16:10 /

[3時間目] 16:20～17:50

テーマ：近世江南民間信仰－祭祀政策と民間信仰の変遷を中心に－

講師：朱 海濱氏 中国・復旦大学歴史地理研究中心副教授 / 学習院大学客員研究員

教室：学習院百周年記念会館4階第4会議室

主催：学習院大学大学院人文科学研究科

日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「東アジア海文明の歴史と環境」

（学習院大学 [日本]・復旦大学 [中国]・慶北大学校 [韓国]）

共催：学習院大学東洋文化研究所

助成：学習院国際交流基金 協力：学習院大学史学会

第一期 [韓国史]

7月18日～20日

[1時間目] 13:00～14:30 / [2時間目] 14:40～16:10 /

[3時間目] 16:20～17:50

テーマ：朝鮮時代の社会と文化

講師：禹 仁秀氏 韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科助教授

使用言語：韓国語（日本語通訳あり 通訳：李英美氏 法政大学兼任講師）

教室：学習院百周年記念会館3階第1・2会議室 定員：40名

概要

本集中講義は、韓国の朝鮮王朝の両班中心社会の構造と彼らの生活文化についての内容を扱う。朝鮮時代史を専攻としない歴史研究者たちが朝鮮社会を正しく理解するのに役立つ講義としたい。

朝鮮王朝は1392年に太祖李成桂によって興され、500年のあいだ繁栄した中央集権的両班^{キョンバン}国家であった。朝鮮社会を理解するためには、最高の支配層である両班官僚と彼らによって構築された諸般の中央集権的政治・社会の構造についての理解が必須といえる。また、両班たちが享有した生活におけるさまざまな文化を通して、朝鮮社会に対する理解の幅を広げられると思われる。

この講義を通して受講者の専門とする研究分野との比較もでき、さらには相互の意見交換を通して互いの歴史に対する認識を広げることでもできるであろう。

授業内容

7月18日 ● 中央の政治構造

- 地方の統治構造
- 官僚制度と官職制度の運営

19日 ● 科擧制の運営

- 教育機関の設立と変化
- 両班の生活

20日 ● 妓生の生活

- 衣生活文化
- 食生活文化
- 住生活文化



禹 仁秀 先生

プロフィール

1958年生。慶北大学校師範大学卒業。慶北大学校大学院博士課程修了。蔚山科学大学副教授を経て、現在、慶北大学校師範大学歴史教育科助教授。文学博士。

主要業績：『韓国の倭城と壬辰倭乱』（共著）岩田書院（日本）、2004。『退溪学脈の地域的展開』（共著）慶北大学校退溪研究所、2004。「朝鮮肅宗朝科擧不正の実相とその対応策」『韓国史研究』130、2005年 ほか

第二期 [中国史]

7月25日～27日

[1時間目] 13:00～14:30 / [2時間目] 14:40～16:10 /

[3時間目] 16:20～17:50

テーマ：近世江南民間信仰—祭祀政策と民間信仰の変遷を中心に—

講師：朱 海濱氏 中国・復旦大学歴史地理研究中心副教授

使用言語：日本語

教室：学習院百周年記念会館4階第4会議室 定員：40名

概要

「近世」とは宋元明清時期を指し、「江南」とは江蘇省南部・上海・浙江全省の地域を指す。「近世祭祀政策の変遷」では最近数十年の日本・欧米の関連成果および私自身が収集した資料を利用して、宋元明清時期における中国中央祭祀政策の変遷のアウトラインを述べ、さらに「祭祀政策と民間信仰の変遷」という課題の必要性について示す。「閩羽信仰の伝播と普及」では明清時期に流行した閩羽信仰を全国神の事例の代表とし、その江南地区での出現・伝播およびその普及の過程に対して考証と分析をおこなう。「周雄信仰の発生および変遷」では南宋中期以来の周雄（1188—1211）信仰を庶民出身の地方神の事例とし、その発生・変遷およびその背景に対する考証と分析をおこなう。「胡則信仰の発生および伝播」では北宋中期以来の胡則（963—1039）信仰を士大夫出身の地方神の事例とし、僧侶・士人がその発生と変化の過程で果たした役割を考察する。「民間信仰と地域社会の関係」では民間信仰と地域社会の対応関係を通して士人・道士・僧侶などの社会集団が各地の民間信仰の変化に関わったことの必然性を説明する。「祭祀政策の変化の民間信仰に対する影響」では本講義における検討の整理とまとめをおこなう。

授業内容

7月25日 ● 近世祭祀政策の変遷

- 閩羽信仰の伝播と普及

26日 ● 周雄信仰の発生および変遷

- 胡則信仰の発生および伝播

27日 ● 民間信仰と地域社会の関係

- 祭祀政策の変化の民間信仰に対する影響



朱 海濱 先生

プロフィール

1968年生。中山大学人類学部卒業。復旦大学中国歴史地理研究所および大阪大学大学院博士課程修了。現在、復旦大学歴史地理研究中心副教授。博士（文学）。

主要論文：「明清時期浙東地域の民間信仰」『大阪大学大学院文学研究科紀要』45巻、2005年。「近世浙江の胡則信仰」『東洋学報』86巻2号、2004年。「近世浙東周雄信仰の発生と変容」『東方学』106輯、2003年 ほか。